

こどもって



おもしろい。



フェアリーランド
FAIRY LAND

小さな「想い」から始まりました。

すべての子どもに、保育の機会を

親の働き方にかかわらず、すべての子どもたちが安心して過ごせる場所で、たくさんの発見や体験に出会えるように。
大人の都合で、モノの貸し借りや「ありがとう」「ごめんね」を強いられることなく、水や土、草木、たくさんの色や素材に触れながら、心と体を思いきり使って遊ぶことができる。
それは、小さな子どもたちが生まれながらに持っている、大切な「権利」であってほしい。
そんな想いから、私たちは小さな認可外保育所として歩みを始めました。

園づくりのはじまり

当時は待機児童問題が深刻な時代。
けれど、私たちは「保育園は親が働くためにある場所」ではなく、
「すべての子どもたちが乳児期にたくさんの豊かなモノ・ヒトと出会うための場所」であるべきだと考えました。そこで、就労要件を問わず、利用時間も自由に選べる園をつくったのです。
今では横浜市乳幼児一時預かり事業として市の制度に参画し、
たくさんのご家庭にご利用いただける園となりました。
ありがたいことに、市内で最も多くの利用者の皆さまに愛される園へと成長しています。

子どもと親、どちらも幸せでいられる「働き方」を探して

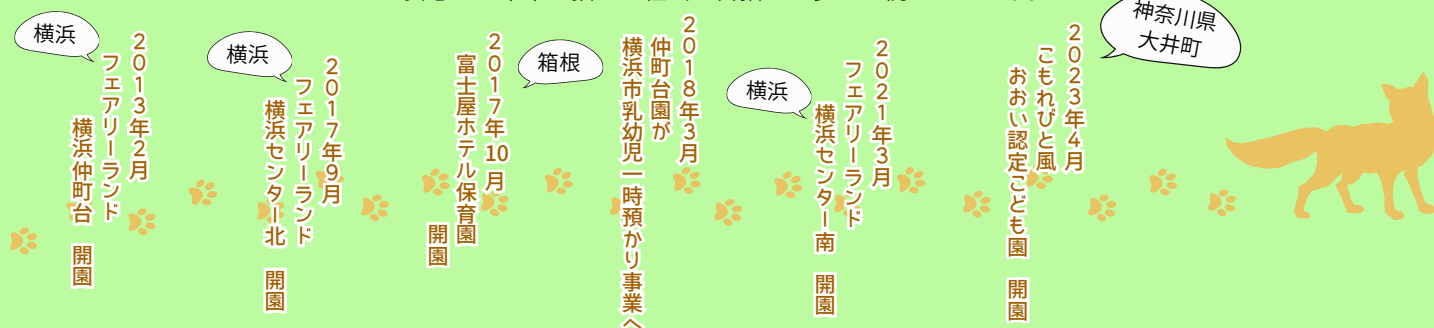
「子どもにとって幸せなことって何だろう?」「親にとっての幸せな働き方って、どのようなものだろう?」
この問いかけを大切にしてきた中で、仲町台園ではうれしい変化がたくさん生まれました。
子どもたちの笑顔を見て、お母さんたちが働き始めたり、資格を取得したり、起業に挑戦したり。
そんな前向きな一歩を踏み出す方が増えたのです。
「子どもはもちろん、親自身も自分の時間を幸せにしたい」
そんな思いから、横浜に2つ、箱根に1つ、企業主導型の保育園を開園するまでになりました。

私たちは、親の幸せのために必要なのは「便利さ」や「手厚さ」だけではないと考えています。
親自身が「子どもって面白い!」「子育てって楽しい!」と心から感じ、
自分の意思で働き方や生き方をデザインできるようになること。
そして、自分らしい人生を大切に歩んでいけるようになること。それが、私たちの願いです。

緑道を歩き、季節ごとに畑で収穫を楽しむ。
そんな自然と寄り添う日々の中で、子どもたちは豊かに育ちます。
その成長を保護者の皆さんと一緒に喜び合えることが、私たちにとっても大きな幸せです。

住まいを自由に選べる時代に、子育てと働き方を考える

どこでも働けるようになり、住む場所も自由に選べる時代になりました。
けれど、その暮らしの中に「子どもたちの学び」や「家族のつながり」はちゃんとあるでしょうか?
私たちは、子どもも親も、そして地域もつながり合いながら、
みんなが安心して未来を描ける社会を目指して歩みを続けています。





「私たちの保育に対する想いをもっとひろめていきたい」

わたしたちは、全国の保育現場とつながりながら、子どもにとって必要な保育環境や保育者が安心して働き続けられる職場環境づくりに携わり発信しています。

保育は子どもを育てるだけでなく、保育に関わる人も、まちも、未来も育てていくということ。

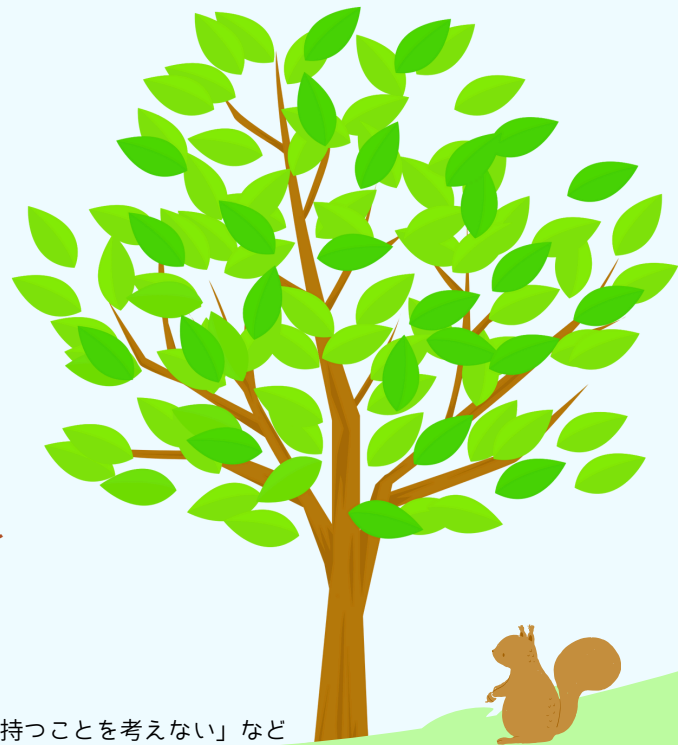
昨今、保育士不足が問題となり「養成校の定員割れや閉学」「保育の担い手がない」

「保育の仕事は大変そうだから職業にしたいくない」などと課題が山積みになっています。

保育の仕事はたしかに大変ですが、保育に疲弊せず、また年齢や経験にとらわれずにどの世代でも保育者としてやりがいがある職場環境づくりが出来ることを、当法人がモデル園となり伝えていきたいと日々、働きやすさの仕組みを構築しています。

「働きやすさ」と「働きがい」
「個」と「チーム」
「今」と「見通しをもった未来」

保育という仕事をもっと魅力あるものとして社会に発信していきたいと思っています。



ちいさなまちからはじまる新しい保育のかたち ～少子化の時代に未来がつなぐ保育を～

2020年、新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの暮らしや働き方、そして人との繋がり方が一変しました。リモートワークが普及し、生活拠点や価値観も多様化する中で、子育てや保育のあり方も新しい考え方が求められるようになりました。そのような中、「子どもを産み育てる環境への不安」「そもそも子どもを持つことを考えない」など少子化への深刻さも更に増してきました。

そうした社会の変化の中で私たちは「少子化だからしかたがない」「現状のままで保育を考えていこう・・・」そんなふうに現状を受け入れて立ち止まるのではなく、今だからこそ保育の在り方に立ち返り、より良い子どもたちの育ちや子育てをする環境を伝えていく必要があると感じるようになりました。

そうした背景の中で5つ目の園として神奈川県大井町に認定こども園を開園しました。人口約2万人弱の小さな町である大井町では、まちの未来を見据えた新たなまちづくりが進められており、その中心に「夢 おおい 未来」という町のビジョンがありました。このビジョンには「しぜんと共に暮らす」「こどもたちが健やかに育つ環境づくり」「若い世代が希望を持てるまち」などの地域の未来に向けた想いと、まちの区画整備が進むエリアには子どもたちが自然と触れ合える大きな公園が整備される計画もありました。まちへの移住促進や子育て支援に対する声が高まっている中、まちとつながりながら「私たちの目指していく保育」を形にしていこうとなりました。

小さなまちにこそ「こどもをまんなかにしたまちづくり」に力を注ぎ、保護者も安心して子育てができる拠点をまちと一体となってこれからも発信し続けていきます。

～私たちが考える保育～

子どもは**社会**の中で育つ

フェアリーランドの原点は、親の就労の有無に関わらず、どんな理由であっても利用できる保育園です。家庭の中で育つ子であっても乳幼児期に保育士と出会い、同世代の子どもたちとの触れ合いの機会を持つことは将来にわたって非常に価値のあることだと考えています。現在は子ども子育て支援制度の枠の中で制限がかかることもありますが、「子どもは社会の中で育つ」という考えのもと、できる限り地域に開かれた保育を目指しています。



保育園は**子育ての楽しさ**を 味わい尽くせる場所

親にとっての保育園とは、子育ての負担を軽減してくれる場所ではなく、「子どもって面白い!」「子育てって楽しいんだ!」ということを感じられる場所でありたいと思っています。働いている保護者が大多数ではありますが、ぜひ保育参加やイベントに少しでも足を運んで頂けると幸いです。あっという間に過ぎ去っていく子育て期。自分の仕事・キャリアに精一杯であったとしても、子どもたちが織り成す成長の軌跡に出会えることは、きっと親にとっても人生の素敵なエッセンスとなることでしょう。



社会全体が「**こどもまんなか**」を 一緒に考えていくこと

私たちは保育を通して地域の方々、企業の皆様にも積極的に関わり合いを持って頂くことに努めています。子どもたちの日々の保育が豊かになるだけでなく、地域の人々のくらしが明るくなり、企業にとっては事業展開や企業価値向上にもつながると考えているからです。



働いている親の代わりではない。 保育士という**プロフェッショナル**な職業は 日本の未来を創り出す

遊びを通じた学び、探究する気持ちを大切にする保育・・・プロフェッショナルである保育士と共に過ごした子どもたちは15年後、20年後に日本の社会で活躍する「未来人材」です。

保育士一人ひとりが、そのかけがえのない職業に誇りを持ち、保育を心から楽しめるよう、働きやすく働きがいのある職場づくりに会社として全力で取り組みます。



理念・方針

こどもをまんなか
みんなが育ち合えるつながりを。

子どもたちが明るく・心豊かで
それぞれの可能性・特性を十分に発揮できる基礎づくりを目指しています。
そのためには、子どもたちのために私たち大人がどうあるべきか
「こどもをまんなか」に置き、
社会全体で繋がり合いながら理解を深めていくことが大切だと考えます。
生き方・仕事・地域・文化との関わり、
それが子どもの育ち・学びの環境に繋がっていくこと、
「こども」に関わる全ての人たちと成長できる場になるように。



のびのびと 育つ

緑豊かな環境の中で
季節の移り変わりを感じながら
沢山の自然に触れ、
心身ともにのびのびと育つ
土台づくりを大切にします。
子どもの育つ環境やリズムは
子どもの数だけ一人ひとり違います。
安心安全な環境の中で
自分のペースで伸びやかに
人との関わりや生きる力を
身に付けていけるように
サポートしていきます。

子どもたちの 「おもしろい」を育む

子どもたちの驚くほどの
好奇心と想像力、そして
「おもしろい」と思うプロセスを
一緒に楽しみたいと思っています。
その子自身が遊びの中で
夢中になって何かを見つけた時、
同じ目線に立って
感動・発見を共有し
自由で豊かな発想を
作り出すことを楽しみます。

幼児期の貴重な時間を 親も子も大切に

幼児期は一瞬一瞬が貴重で
子どもたちの成長は驚くほど速く、
このかけがえのない時期を
見逃しがちになってしまいます。
子どもたちが遊びや学びを通じて
成長する姿を
親としてとことん楽しみ、
幼児期というあっという間に
過ぎ去っていく時間を
充実した時間となるよう
園と家庭で連携していきます。



FEATURES

フェアリーランドの特徴

神奈川県を中心に全国に6つの園を展開し企業主導型保育事業、横浜市乳幼児一時預かり事業、認定こども園を運営しています。
「こどもまんなか」の理念に基づき、各園ごとに違う地域の特性を踏まえながら、
子ども一人ひとりを中心に考えた保育を展開しています。
各園の園長を中心に横断的な連携を図り、オンライン会議や対面を通じて情報交換や情報のアップデートを行っています。
今求められている保育や教育のニーズの最新の情報を迅速にキャッチアップし、
常に質の高い保育と問題解決に努めることができています。
多様な保育事業形態を運営しているからこそ、子育て世代へのサポートや働く親たちのニーズに応えることができ、
子育てと仕事の両立をサポートできる環境がフェアリーランドの特徴と言えます。
地域の良さを活かしつつ、私たちは子どもたちの伸びやかな成長につながる保育・教育を実現しています。

COMPANY

会社概要

会社名	株式会社フェアリーランド (Fairy Land CO.,LTD.)
本社	横浜市都筑区仲町台1-3-7 ヤマヒョウビルB館1階
拠点	東京都 神奈川県 長野県 [全国6か所]
法人代表	菊地加奈子
設立	2012年9月3日
開園	2013年2月1日
事業内容	横浜市乳幼児一時預かり事業 企業主導型保育事業 事業所内保育施設の開設・運営サポート



HISTORY

沿革

- 2012年 設立
- 2013年2月 認可外保育施設 フェアリーランド横浜仲町台 開園
- 2015年2月 横浜ビジネスグランプリ女性起業家賞受賞。少子化時代の子育て支援のあり方を評価される。
- 2017年9月 企業主導型保育施設 フェアリーランド横浜センター北 運営受託
- 2017年10月 企業主導型保育施設 富士屋ホテル保育園 運営受託
- 2018年3月 フェアリーランド横浜仲町台が横浜市乳幼児一時預かり事業へ
- 2021年3月 フェアリーランド横浜センター南 運営受託
- 2023年4月 こもれびと風あい認定こども園 開園
- 2024年2月 一般社団法人こどもの未来につながる働き方研究機構 設立

子どもは家庭の中だけでなく社会の中で育つ。
親の就労の有無に関係なく、
誰でも利用できる保育園を開園。

社会保険労務士法人ワーク・イノベーションとフェアリーランドの2つの組織をつなぐ役割。
こどもまんなか社会の実現のために、
社会における親の働き方改革や保育の質向上の推進のための活動を行っています。

施設一覧

フェアリーランド横浜仲町台

一時保育

住所 横浜市都筑区仲町台1-3-7ヤマヒョウビルB館1階
TEL 045-500-9775
開所時間 月曜日～金曜日 7:30-18:30
最寄り駅 横浜市営地下鉄ブルーライン「仲町台」駅から徒歩30秒
定員 18名（生後57日目～5歳児クラス）



フェアリーランド横浜センター北

企業主導型保育園

住所 横浜市都筑区中川中央1-29-24アビテノール3階
TEL 045-509-1231
開所時間 月曜日～土曜日 8:00-18:30
最寄り駅 横浜市営地下鉄ブルーライン「センター北」駅から徒歩30秒
定員 19名（生後57日目～2歳児クラス）



フェアリーランド横浜センター南

企業主導型保育園

住所 横浜市都筑区茅ヶ崎中央17-22プルミエールセンター南1階
TEL 045-507-4805
開所時間 月曜日～日曜日（365日） 7:00-20:00
最寄り駅 横浜市営地下鉄ブルーライン「センター南」駅から徒歩2分
定員 12名（生後57日目～2歳児クラス）
設置 株式会社エムアイシー（M.SLASHが運営している企業主導型保育園）



富士屋ホテル保育園

企業主導型保育園

住所 神奈川県足柄上郡箱根町湯本213-3グランドスイート箱根1階
TEL 0460-83-9020
開所時間 月曜日～日曜日（365日） 7:30-20:30
最寄り駅 箱根登山鉄道線「箱根湯本」駅から徒歩9分
定員 12名（生後57日目～2歳児クラス）
設置 富士屋ホテル株式会社



こもれびと風 おおい認定こども園

保育所型認定こども園

住所 神奈川県足柄上郡大井町大井中央280
TEL 0465-20-7170
開所時間 平日：7:00-19:00 土曜日：7:00-16:00
最寄り駅 J R御殿場線「上大井駅」「相模金子駅」 徒歩15分 ※駐車場完備
定員 93名（生後57日目～5歳児クラス）



VISION

誰もが子どもとの関わりに 喜びを感じられる社会へ

保育者は親の代わりに子どもを育てる人ではなく、親や家族はもちろん社会全体に対して「こどもって面白い!」ということを伝えることのできる人たちです。私たちは、親や家族だけでなく世の中全体で子どもの育ちを考え、その喜びを実感できる社会の実現のために、丁寧な保育はもちろん、枠にとらわれない自由な感性で未来をとらえ、幅広い人たちとのつながりを大切にしていきます。



MISSION

子どもが子どもであること、親が親であることを心から楽しむことができるために。
世の中のすべての人が子どもと関わることを楽しめるように。
丁寧な保育をはぐくみながら「くらし」と「はたらき方」をより豊かに。

多くの人が子どもと関わる機会が減りゆくなかで、子育ては親にのみ委ねられる現状があります。「子育て支援」「保育サービス」「両立支援」という言葉はどれも子育ては辛いもの、という前提のもと、親や家族たちを助けるための位置づけです。私たちは保育を通してすべての子どもがその子らしく育つこと、その尊い営みを誰もが喜ぶことのできる世の中をめざし、子どもを起点としてくらし方やはたらき方が豊かに変化していくために取り組みます。

1. 関わるすべての子どもに丁寧で豊かな保育を

保育者にとって何よりも大切なことは、私たちの施設にきてくれたすべての子どもたちと全力で向き合うことです。経験や思い込みに頼らず、職員間の対話や学びの機会、振り返りと考察を重ねながら目の前の子どもたちに思いを巡らせ、丁寧で豊かな保育をはぐくみます。



2. すべての子どもに保育の機会を

保護者の就労状況や家庭の環境にかかわらず、子どもたちの誰もが等しく豊かな育ちを経験できることを願っています。もちろん、家庭での保育も愛情に満ちた素晴らしいものですが、プロフェッショナルである保育士と関わる機会を持つことは子どもたちにとって非常に大きな財産となります。子ども・子育て支援制度では、教育・保育を受けるために認定区分が設けられており、家庭の状況によって利用できる施設・事業が異なりますが、フェアリーランドでは子育て支援事業を積極的に実施することによって、地域全体の子どもの育ち・子育てを応援します。



3. 「はたらき方」と保育はつながっている

未来人材たる子どもを育てる保育者、そして親たちの働き方も重要です。保育者や親、子どもと関わる大人たちが楽しく、働きがいを感じながら仕事と向き合っていることは子どもたちの心の安定や健やかな成長につながります。私たちは子どもが育つ環境を保育所等にとどめず、社会全体としてとらえています。子どもと関わる親、これから親になる人、その親が働く企業、そして子どもたちの育ちの場である保育現場に対し、グループ法人である「社会保険労務士法人ワーク・イノベーション」「一般社団法人こどもの未来につながる働き方研究機構」とともに、そのくらしを支え、生きがいややりがいを最大化するためのはたらき方を提案します。



行動指針

1. 自律とチームワーク

仕事をする上で自律している人というのは、
「自ら仕事の目標を設定でき、仕事への価値や意義を見出せる人」のことをいいます。
独りよがりでの自分の考えだけを信じて行動するのではなく、
また多勢に迎合して自らの考えを押し殺してしまうのでもなく、
働く仲間との関わりや深い対話を通じて自分がやりがいを感じながら、
組織の中でもっとも貢献できる方法を生み出すことを目指します。



2. 保育者としての誇りと学ぶ姿勢、全力で楽しむ姿勢

つねに自分のスキル・経験をアップデートするための
深い学びを得ながら探求を続け、実践と学びを通して保育を全力で楽しみます。
職業人生の中では子育てや介護、自身の体力低下といったさまざまな波があります。
仕事にかけられる時間が限られたとしても、つねに保育者たる誇りを持って行動します。



3. 働きやすく、働きがいのある職場環境の追求

子どもたちが育つ環境はもちろん、保育者が働きやすさと働きがいを感じられる
環境づくりは豊かな保育を行う上で非常に重要です。
「働きやすさ」とは「ラクに働くことができる」ことではなく、
働く上で当たり前には保障されるべき労働環境があること、
職場のコミュニケーションが良好で風通しが良いこと、
ライフステージの波に合わせて柔軟に働き方を変えながらも
キャリアアップできる土壌があることだと考えています。
経営層・園長・リーダーを中心にこうした職場環境を整備し、
学ぶ喜び、実践を通して感動できる喜び、達成・成長の喜びを感じられる職場づくりに尽力します。



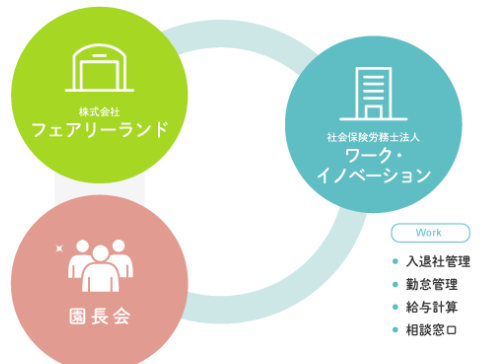
組織体制

保育内容、職員育成、リスクマネジメントを
はじめとした園運営に必要な対応について
全園共通の方針とし、
横浜の3園、箱根、大井町（神奈川県）の
各施設の園長がつねに情報を共有し、
議論を重ねています。

法人の特徴

一人一人の顔と人柄がわかり、
声をかけあえる関係性

各園の良いところを取り入れ、
課題は一緒に乗り越える、
風通しの良い関係性



各園

育成

より良い保育を
探究する

- Nurturing
- 研修
- 各園交流
- 採用
- 実習受け入れ
- 見学会
- 各園の情報共有

安全 衛生

園児と職員を
守りきる

- Safety
- ヒヤリハット共有
- 事故報道検証
- AED研修
- アレルギー
- BCP計画

企画

新しいことに
チャレンジする

- Plan
- 地域交流
- 畑の活動
- 保護者との企画
- 読み聞かせ
- 取り組みの発信

運営 管理

より良い体制を
つくる

- Operation
- 業務の効率化
- 収支の検証
- 適正の内部チェック
- 監査対応
- 保育者のサポート



私たちの働き方・・・



1. 子育て中のパートもリーダーに

フェアリーランドには豊かな経験を持った保育者が大勢います。保育の仕事はシフト勤務ですので、生涯にわたって正職員で働き続けることが非常に難しい職種であると言えます。子育て中にペースダウンすることは全く悪いことではありません。でも、働く時間が短くなったとしてもこれまでの経験や培ってきたスキルを活かして少しでも新しいことに挑戦することが大切です。普通の職種よりも仕事をセーブする期間が長くなりがちであるからこそ、歩みを完全に止めてしまうのではなく、歩幅は小さくても着実にステップアップする意欲が何よりも大切、その思いでキャリアアップを支援します。

2. それぞれの強みを生かし、弱さはチームで補完する

5つの園の職員が一体となってチームワークを高めています。それぞれの強みを活かした役割分担はマトリクス組織と言い、役職や施設の壁を越えて議論を重ねながら全園で高い保育の質の維持・向上を目指しています。自己評価では、すべての項目を完璧にすることを目的としているのではなく、強みと弱みがあることを自覚し、安心して自己開示できることを約束しています。それぞれの強みと弱みを補完し合える関係性を築きながら、チームとして理想の保育を実現させることを大切にしています。



3. 目標設定と評価

保育の自己評価とは別に、法人としての評価制度を設けています。キャリアパスを通して自分のキャリアとそれに紐づく待遇を明確にすることでライフステージとキャリアビジョンを明確にします。また、「できる・できない」ということをジャッジして、できないことを責めるのではなく、自分の「強み・弱み」を知り、職場の仲間に自己開示できること、自分の気づかない強みと弱みを仲間から伝えてもらうことで自信をつけたり協力者を得たりできる組織を目指しています。



4. メンバーの循環

横浜の近隣エリアに3園、神奈川県西エリアに2園を構えており、近隣エリア間で職員の交流が活発に行われています。他園の様子を感じ取ること、職員間のコミュニケーションを活発にすることで風通しがよく、いつでも助け合える関係ができています。





フェアリーランドの考える働きやすい職場とは・・・

1. 保育が楽しいと思えること

「こどもをまんやかに」子どもと一緒に遊びを心から楽しめる環境こそが保育者にとって何より幸せなことなのではないでしょうか。保育者間で自由に思いを伝え合い、それを皆で練り上げ、子どもたちと全力で楽しめるまでの過程、全部まるごと楽しめる職場、それこそが私たちが考える「働きやすい職場」です。



2. “ちょうどよい” 負荷があること

私たちは負荷をゼロにしようとは思っていません。仕事である以上、緊張感が必要ですし、現状をより良くするためのチャレンジにも負荷はかかります。保育者の成長や保育の質の向上につながるポジティブな負荷をしっかりと受け止め、それを乗り越えたときの成長実感を大切にしています。一方で職場の人間関係や過重労働、スキルに見合っていない仕事といったネガティブな負荷については、管理者層・リーダー層を中心に限りなくゼロに近づけています。



3. 誰もが自分の考えを言えること

感じたこと、やってみたいと思ったことを自由に発言できることは働きやすい職場づくりにおいて非常に大切なことだと考えています。常識にとらわれず、独断に陥らず、風通しの良い人間関係づくりを意識しています。



4. 園長・リーダー層のマネジメント力があること

スキル・人柄の両面において優れた園長・リーダー層がポジティブで温かみのある職場環境を育てています。また、マネジメント教育・リーダーシップ教育を徹底しており、保育に関する法制度の理解、行政からの通知の共有、事故報道があった場合の検証、職場環境をより良いものにするための人事労務管理など、自分の経験と勘に頼らない園運営を行っています。



保育者について・・・

フェアリーランドの開園当初の保育者は、一度保育から離れたけれど、やっぱり保育が大好きで復帰した人たちが集まってスタートしました。小さな子の育児真っ最中のママばかりでしたが、はじめは短時間勤務をして子育てとの両立をしながら、少しずつステップアップ。山あり谷ありでも子どもたちの成長を目の前で見られることはとてもやりがいを感じ、今では仲間も増えてたくさんの保育者がリーダーとして力を発揮して活躍しています。保護者にとって送迎時の保育者とのひとは、育児の時間でもお仕事の時間でもない解放された時間です。子育てと保育は違うけれど、「今日は自分でズボンがはけたよ」「うまく積み木が積みなくて悔しい気持ちになったよ」「雲に興味をもってたよ」「いつも怖がっていた虫を捕まえられたよ」と園での小さな変化を保護者と一緒に共有して喜びたい。悩みを抱えた保護者から相談を受けたら、提案をしたり一緒に考えていくことで保護者がその不安や悩みを少しでも解消できたり、子育ての喜びを改めて実感して前向きに育児に取り組めるようになってほしい。こうした日々のやり取りが保護者支援となり、保護者の養育力を高め子どもが育つ環境をプラスに変える力になる——そんな想いも強く持っています。開園から10年を迎えたフェアリーランドは、現在保育者が80名を超えて、新卒からベテランまで幅広い層が活躍しています。全園の保育者全員が、無限の可能性を秘めたかけがえのない子どもたちの「今」を大事に過ごしたいと思っています。





経験も年齢も

それぞれのカラーが輝ける保育の現場 ～保育士という選択～



保育者 Nさん

育児休暇を取得しながら自分に合った働き方で

1人目の出産で専業主婦となりましたが、子連れをしながら扶養内パートで保育士として復帰。様々な経験をしてきた仲間たちと保育を楽しみながら、これまでの経験を活かして新規開園にも携わらせていただきました。2人目の出産で1年育休を取得し、3人目の出産を機に正社員に転換し生後2か月でスピード復帰しましたが、1年後に心身共にバランスを崩してしまい、自分のペースで子育てと仕事の両立ができる働き方を選択しました。現在は4人目を子連れしながら、フルタイムパートでセンター北園の園長として勤務しています。保育の仕事は好きだけど、どうしても疲れてしまう時もあります。頑張る時は精いっぱい力を発揮する、どうしても疲れてしまった時は一度立ち止まることも必要と足踏みすることを認められている環境だからこそ、今も自分らしく保育士として自信をもって仲間と楽しく働くことができています。



保育者 Yさん

子どもも楽しく自分らしく園生活を過ごせる

大学生の頃は実習やアルバイトを通して保育の現場に関わってきましたが、その時は今ほど子どもたちや保護者、職員の方と深く関わる機会がなかったこともあり、自分が保育士として働く姿が想像できませんでした。しかし、実際に働いてみると子どもと信頼関係を築いていく中で、自分を頼ってきてくれることやできなかったことができるようになるなど些細なことでも子どもの成長を見られたときにとてもやりがいを感じています。また、園の雰囲気良く、先生方の生き生きと働く姿から毎日刺激をもらっています。分からないことは周りの先生に相談しながら自分らしくのびのびと働くことができています。子どもも楽しく自分らしく園生活を過ごせるように試行錯誤ができ、学び続けながら成長していく保育士でありたいです。



保育者 Mさん

我が子と同じ園で勤務すること、私のライフスタイル

大規模幼稚園で勤務していましたが、子どもたち一人ひとりとじっくり関わりたいと思いフェアリーランドに正社員として入社。産休育休を経て、第1子連れで時短勤務で復帰しました。我が子の前で他の子どもと関わることで、息子も泣きながら後追いをすることも多く、正直親子ともに葛藤がありました。しかし先生方が私の気持ちに気遣いながら息子と関わってくださり、今では園に行くと「まませんせい」と呼ぶなどしっかりと理解してくれるようになりました。ライフステージに合わせてパートに変更したこともありましたが、やっぱり子どもたちと深く関わりたい！との思いが強くなり、短時間正社員に変更。様々な働き方に柔軟に対応してくださり、家庭と仕事の両立がバランスよく取れます。また、クラスの担当はありますが、同じ保育室で保育をしているため、いろいろな先生方と子どもの様子やアプローチの仕方などを共有することができ、とても心強いです！子どもたちとじっくりかわかり、成長を側で見守ることがとても嬉しく楽しくお仕事しています。



保育者 Iさん

保育士の個性や特技を引き出して大切にしてくれる職場

大学卒業後、4年間幼稚園教諭を経験後保育以外の世界も知りたいという気持ちから一般企業へ。その後折角ならもう一度資格を活かそうと保育士として保育現場に戻りました。保育の現場に戻る上で就職先を決める際に私が重視した点は「少人数保育」と「職員間の風通しの良さ」でした。フェアリーランドに入社してからはセンター南園と北園の2園を経験しましたが、どちらの園も相談出来る上司や同僚がいて一人で悩む事がなくなりました。保育士それぞれの個性や特技も大切にしてくれる現場なので、自分では思い浮かばないような保育のアイデアや発想を吸収出来、また子どもだけでなく保育士も色々な事にチャレンジ出来るチャンスがあるので自身のスキルアップもしやすい環境だと思います。



保育者 Kさん

小さな子どもを持つママ保育士でも正社員へキャリアアップ

小学校4年生～3歳までの4人の子を育てながら、フルタイムパートで働くことを決めた時は保育士に復職できる楽しみと共に、大丈夫かな？という不安もありました。しかし実際に働き始めてみると皆さんあたたかい先生ばかりで、子ども達の行事や体調不良などの休みにも快く対応してくれますし、子育て中の先生方が多いので相談事や子育ての情報共有もさせていただいています。多様な家庭環境の中で「みんなで助け合う」という姿勢で見守ってくださるので、すごくいい環境に恵まれているなと実感していて、その関係性があるからこそ現場では責任を持って働くことができています。また私の場合、下の2人の子を同じ園に預けながら働かせてもらっており、子どもたちが近くにいるという安心感はとても大きいです。園内で見かけると甘えに来ることもありますが「先生の時間」「ママの時間」と理解し接してくれるので私自身も仕事に集中することができています。大変な事や悩む事もありますが、家族と一緒に働く先生方に支えられながら保育へのやりがいを持って楽しみながら働いています。そんな私はこども園でフルタイム勤務から1年半。次のステップとして正社員へキャリアアップすることにしました。

安全に関する私たちの考え方・・・

安全が守られた中で、 子どもの自由なあそびを最大限に後押しする環境

子どもの主体性や自主性を育むためには、自由なあそびの場が必要です。
子どもが自ら考え行動する力「やりたい!」という気持ちを引き出すために、
多様なあそびや素材を用意する物的環境を整え、一人ひとりの学びを深めるサポートをしています。
しかし、その自由なあそびの中には安全が確保されていなければなりません。
過ごす環境や年齢、個の発達に応じた安全への配慮を徹底し、定期的な安全点検を行っています。
安全が守られた中で子どもがどこまでも挑戦できる理想的な空間を作っています。

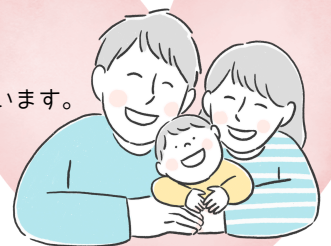


災害などの緊急事態における 事業継続計画（BCP）を全園、策定しています。

日本各地で頻繁に起こる自然災害。命を守る行動は日々の訓練の積み重ねです。
フェアリーランド全園では、事業継続計画（BCP）を策定し、
災害や緊急事態があった場合、どのように行動し連携をとっていくべきか
あらゆる被害を想定して的確な対応ができる組織体制を整えています。
それぞれの地域の立地・ハザードマップを確認し、
避難経路や非常時の対応マニュアルを職員全員が理解し実行できるようにしています。
子どもと職員の安全を考え、事業の継続を行うとともに、
地域全体で協力して安心・安全な保育環境を整えています。

保育中の不適切保育や家庭の事情（DV）からの子どもを守る

保育者は子どもの人権を尊重し、安全な環境を守らなければなりません。
子どもが保育中に虐待や不適切な扱いを受けないようにするために、
保育者間で会議や研修を定期的実施し、
早期発見と課題解決するスキルを身に付けていくことを重視しています。
また保護者からのアンケート調査などを積極的に取り入れ、園と保護者の信頼関係の構築に努めています。
一方で、家庭内でDVが発生している場合は、施設側も子どもの行動や発言などを見逃さず、
細心の注意を払いながら子どもの命を守る対応を行い、
地域の福祉機関や専門家と連携し、家庭内の問題を把握するよう努めています。
施設側と家庭、地域が一体となって子どもを守る仕組みを整えています。



日本版DBS 性被害から子どもを守る

DBSとはDisclosure and Barring Serviceの略称で過去に性犯罪歴のある者が
教育や保育の現場に就けないようにすることで、新たな被害の発生を未然に防ぐというものです。
保育園の職員採用にあたって犯罪歴のある人は就業が禁止されています。
自治体においても保育士や幼稚園教諭の有資格者が過去に重大な犯罪を起こしていないか確認しており、
採用する施設側も独自のチェックを行うことで犯罪リスクを抑えることが出来ます。
子どもの性被害を守る観点からホームページやSNSを用いて画像や動画を掲載する際は、保護者と同意書を交わし、
子どもの性的な部位（性器・肛門・これらの周囲部や臀部、胸部）を掲載することは無いよう徹底しています。
夏季の水あそびや着替えも外部から故意に撮影される場合も想定し、
子どもたちのプライバシーと安全を考慮した環境設定や対策を講じています。

こもれびと風おおい認定こども園「子育て支援ひろば ぴよぴよ」

子育てをともに歩むために ～わたしたちの子育て支援の考え方～



—笑って・考えて・つながれる場所—

フェアリーランドでは「子育ては一人で悩まない」という想いを大切にしながら、地域の子育てを温かく支えるさまざまな取り組みを行っています。園舎や園庭、公園など自然に恵まれた環境を活かし、子どもたちがのびのびと過ごせるような活動や親子が安心して交流できる場を開いています。子育ては誰もが初めての経験です。戸惑いや不安を感じることもあれば、ほっとできる場所や子育て情報、つながりを求めることもあるでしょう。それぞれの思いや状況に寄り添いながら私たちはいつも柔軟な考え方で一人ひとりに寄り添えるサポートを心がけています。



子育ての中で「笑顔」が生まれること。
人と人とのつながりの中で、子どもも大人も安心して過ごせること。
そして、ちょっと立ち寄って話をしたり笑い合ったりしながら「子育てって楽しいね」と感じられること。
そんな場所であり続けたいと思っています。

家庭では味わえないこと 「ここでしかできない、広がる体験」

子育て支援ひろばにはたくさんの親子が訪れてくれます。
初めておもちゃに触れる子。初めて友だちと出会う子。
家庭ではなかなか味わえない発見やドキドキがたくさんあります。
また親にとっては「あれ？こんなことができるんだ！」と
我が子の新たな一面に気づく場面もあります。
それは誰かと比べるということではなく、
その子自身のステップとして大切に受け止めていく——
そんなまなざしで見守れる場所です。



育児相談「ひとりで悩まない子育てを」 利用者支援事業も併設しています

子どもの発達や関わり方、ちょっとした気がかりも
「こんなことで相談してもいいのかな？」と踏みとどまることなく
気軽に話せる場所が子育てひろばにはあります。

今はネットで何でも調べられる時代。

でも調べるほどに不安が増してしまうことも少なくありません。
そんなときこそ聞いてくれる場所が心強い存在になります。

子育て支援ひろばは利用者支援事業も併設しており、
作業療法士など専門職のアドバイスを聞くことができたり、
必要に応じて適切な関係機関とつなげる支援も行っています。
私たちはそっと寄り添いながら一緒に考えていきます。

こども園のイベント 「園の取り組みを知る機会」

子育て支援ひろばだけにとどまらず、
こども園の活動にも積極的に参加する機会を設けています。
園が大切にしていること、
保育者たちの想いや関わり方を知るきっかけにもなります。
園とのつながりを深める時間を通じて
「こんな関わり良いな」と気づいてもらえるよう
開かれた園でありたいと考えています。



素材を使ったモノづくり 「手のひらから広がるモノへの関わり」

身近な素材を使ったモノづくりも地域の方と一緒に。
使わなくなった箱や端材・飲み物のパックなど
余すことなく新しいあそびへと変わっていきます。
既製品だけがおもちゃではありません。
自分で作るよこび、形が変わる面白さ、
何よりも普段目にしている素材が
「こんなに楽しいものになるんだ」という気づき——
そんな体験が子どもたちの創造する力や意欲を育てていきます。
飽きてしまうからと次々に新しいものを買い与えるのではなく、
"今あるもの"を違う形にしていける工夫も
子育てひろばで体験することが出来ます。

園庭開放

「沢山の植栽に囲まれた園庭でたっぷりあそぼう」

40種類程の植栽に囲まれた園庭には
木々の葉や草花、虫の声など子どもたちの心を
楽しませる豊かな環境が広がっています。
こども園の園庭には遊具はありません。
だからこそ自然があそびになるのです。
どろんこあそびに夢中になったり、石の下の虫を探したり、
風や虫の鳴き声や羽音に耳をすませたりと
自然の中であそびがどこまでも広がっていきます。
「みつけた!」「おもしろい!」
という気持ちが自然とあふれる——
そんな時間を親子で過ごすことを大切にしています。



地域とのふれあい 「読み聞かせやわらべうた」

子育て支援ひろばでは、
地域の方々による読み聞かせやわらべうたの時間があります。
絵本の世界にじっくり引き込まれていく子どもたち。
語り手の声や間のとり方、歌い手のやさしい響きに
耳を傾けながら、その世界を味わいます。
私たち保育士の読み聞かせとはまた違う、
地域ならではのあたたかな世界観。
集中力が高まり、語彙力が育まれるだけでなく、
人と人とのつながりが子どもたちの心をやさしく包みます。
地域の力が、子育てにそっと寄り添う、そんなひとときです。

こども園の給食をみんなで 「給食試食会」

こども園の給食は、旬の食材を取り入れながら
栄養バランスはもちろん、子どもたちの「おいしい」の声を
引き出すために一から丁寧に手作りしています。
いつもと少し違う雰囲気の中で食べる楽しさ、
ちょっとした味付け、食材、盛り付けの工夫で食欲がわくこと、
苦手な食材にも自然と手が伸びることなど
給食試食会を通じて新たな発見が見つかるかもしれません。
「おいしいね」と顔を合わせる、
そんな温かな時間を通じて食べることの「楽しさ」を
親子で感じてほしいと思っています。

子育て支援ひろば「ぴよぴよ」

対象年齢：生後2ヶ月～就学前までの
保育園・幼稚園に在籍していないお子さんと保護者
開催日：HPをご覧ください
時間：9:30-14:30
定員：HPをご覧ください
利用料金：無料（給食試食会などは有料となります）

利用者支援事業

対象者：子育て家庭や妊産婦さん
利用日：月曜日～金曜日
利用時間：9:00-17:00
利用料金：無料
その他：オンラインでも受け付けています

子育て家庭からの日常的な相談を受け付け、
それぞれのニーズを把握するとともに関係機関を円滑に
利用できるよう寄り添いながら情報提供を行います。
育児や発達に「困った」「悩んでいる」ことを
一緒に考えるお手伝いをします。



こもれびと風 おおい認定こども園

住所 神奈川県足柄上郡大井町大井中央280



フェアリーランド横浜仲町台の 一時預かりについて

—子育て世代誰もが利用できる場所—



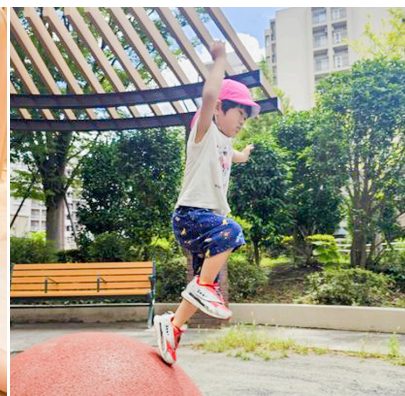
仲町台園は2013年設立以来、地域の子育て拠点としての役割を担ってまいりました。

2020年の新型コロナウイルスを経てリモートワークなどの仕事をする形態やライフスタイルも大きく変化していく中で一時預かり事業へのニーズが多様化し、より柔軟な保育環境の場が求められるようになりました。

開園以来、堅実に実績を重ね、子育て世代の生の声を聴きながらその多様なニーズに応えてきました。

新規登録者も増えており、現在は近隣の駅だけでなく、遠方の駅からも多くの方々にご利用いただいています。

今後もさらなる社会の変化に対応するため柔軟な子育て支援に取り組んでいきたいと考えています。



家庭の代わりではない、ここでしか味わえない豊かな育ちの機会を

制度で決められた「保育の必要性」を超えて、すべての子どもたちが数日・数時間であっても保育士と関わり、保育園で過ごす機会を持ってほしいと考えています。保護者が心から元気でいられること、「こどもって面白い!」という喜びを味わえること、この両方が叶えられてこそ、子育て期が豊かなものになっていくのです。地域のたくさんの家庭に、この機会を味わってほしいと願っています。



親に対する子育て支援

就労している親よりも育児に専念している親の方がストレスの度合いが高いといわれていることもあり、入園面談や送迎時に子育て相談をされる方も非常に多くいます。子育てに疲弊しないよう、また、子育ての楽しさを味わえるよう保護者とじっくり話せる時間を確保し、心理的なサポートや育児の悩みに対するメンタルヘルスの支援をしています。



共働きに向けた支援

こども未来戦略においても、共働き・子育て支援が強化されています。男女問わず、育休がこれまで以上に取得しやすくなり、時短勤務やリモートワークへの支援も広がりますが、家庭での子育て時間が延びることによって産後うつ(男性も含め)の増加を実感しています。育休中は通常の保育園を利用することはできませんが、一時預かりは大丈夫。育休は休んでいる期間ではありません。初めての育児に緊張したり、仕事の復帰に向けて不安な気持ちになったり、ストレスも大きくなるのです。横浜市内でスタートした「はじめてのおあずかり券」は、生後57日以上未就学児であれば誰でも利用可能です。育休中だからこそ、子育ての協力者をつくり、心から子どもの育ちを楽しめる環境を築いていくことは大切なことなのです。



一人ひとりに寄り添った環境

個別にゆっくりと過ごせるよう、どの子どもがどのような気持ちでいるか、保育者同士で共有し個々のペースに合わせた対応をします。子どもたちの情緒面での成長もサポートできるような温かな関わりを整えています。



いつでも子どもたちが楽しめる空間に ～2024年5月にリニューアルしました～

玄関を開けると、明るい光が差し込む広々とした空間が広がり、子どもたちを温かくお迎えします。
「楽しそう!」「あそびたい」とワクワクする気持ちを高めていけるような環境がたくさん揃っています。
リニューアルした仲町台園に是非あそびにきてください。



誰もが通える環境が整っています。

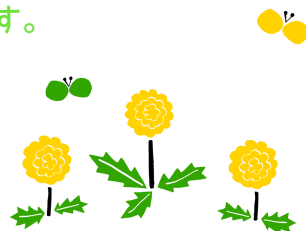
0歳児から5歳児まで誰もが楽しめる温かみのある環境です。
初めての登園でも安心できる第二のおうちとして落ち着いて過ごせます。
異年齢同士のコミュニケーションや遊びに熱中する時間も生まれます。
幼稚園をご利用の方にも夕方や長期休み等ご利用いただいております。

雨天時以外は、ほぼ毎日お散歩に出かけています。
月齢の低いおともだちが多い時はゆったりと過ごせるようバギーに乗っての周遊や室内遊び、幼稚園のおともだちが多く
登園した時には身体をたくさん動かせる遊具のある公園など、登園した子どもの様子や年齢によって活動内容も日々変えています。
毎日行う朝の集まりでは皆で歌を歌ったり名前を呼ばれてお返事をしたりしています。園での生活に切り替える「スイッチ」にも
なっていて、幼稚園入園前の練習として保護者の方からご好評いただいております。



子どもの考えや感性を大切に、温かくて刺激いっぱいの時間を過ごしています。

園周辺にはたくさんの公園があります。遊具のある公園だけではなく、小川が流れ、
木の実や草花に囲まれた緑道は、子どもたちにとって最高の遊び場です。
いつもの生活の中から「なにそれ～?」を引き出し興味のきっかけ作りを大切にしています。
季節ごとの自然の触れ合いもたちまち面白いあそびに発展します。
日々の生活を大切にしながら、その中での特別をたのしもうという考えのもと行事も行っています。



対象となる児童

1. 横浜市内に居住していること。
2. 生後57日以上で小学校就学前であること。

当園では近隣の幼稚園に通園の方にも
ご利用いただいております。
幼稚園指定のバス停（園から近い場所限定）まで
当園スタッフが代わりに送迎、そのままフェアリーランドで
楽しく過ごし、保護者のお迎えを待ちます。
利用時はご相談ください。
長期休みや幼稚園がお休みの日にもご利用いただけます。

利用相談について

何か困った、聞きたい、気になっていることがあれば
いつでもご相談ください。
利用時に個別でお話しすることも可能ですので
お気軽に声をお掛けください。

フェアリーランド横浜仲町台

住所 横浜市都筑区仲町台1-3-7 ヤマヒョウビルB館1階

EAT

食べることは生きること

育てる、つくる、
食べる、感じる、育つ。
生きることが
全て詰まった食事



食べることは生きること。
食は生きる上での基本であり、何をどう選択し
食べるのか食における様々な経験を通じて
食に関する知識と選択する力を習得して欲しい。

私たちが思う健全な食生活の基本は『和食』です。
ご飯、おかず、汁物からなる一汁一菜。
古来より日本人はお米を主食としてきました。
お米は身体を内側から活性化してくれる力を持っています。
お米を主食としおかずや汁物でバランスをとる和食を
給食の基本とすることは、日本人の食生活の原点回帰だと思うのです。

さらに当園では食具にもこだわり、年齢があがるにつれて
陶器の茶碗と木製の汁椀で、給食を食べます。
和食の基本の形を学び、和食を食べる作法を学ぶことができるように。
そんな願いをこめて食具を使い分けしています。

食事は心を豊かにします。
泣いていた子も怒っていた子も
給食を食べたあとには笑顔になっていました。
そんな風景を目の当たりにして
みんなで食べる給食が
子ども達の笑顔の種になってほしいと思うのです。



こもれびと風 おおい認定こども園

食べることは生きること



食物繊維が
たっぷり
入っている
麦ごはん。
柔らかく炊いて
いただきます。

幼児期に形成
される味覚。
かつおと昆布を
じっくり煮だした
出汁を使います。

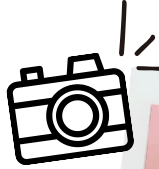
ぬくもり
ごはん

砂糖の代わりに、
天然のオリゴ糖が
ふくまれている
てんさい糖を
使用しています。

地元の野菜や
旬の食材を使い
調味料などは
なるべく無添加
国産のものを
使用しています。

フェアリーランド横浜仲町台

お弁当から繋がる幸せ



【一時預かり】だからこそ

保護者の方が用意してくださった安心できるお弁当が良いと実感しています。
お弁当で親子の絆が見える瞬間があるからです。

「これ〇〇ちゃんのお弁当～」と嬉しそうに保育者に見せる姿や
お散歩中に「今日デザートが入ってるんだ～」とお弁当を楽しみにしている姿、
大好きなおかずを見て泣き止んで夢中で食べる姿、
お昼寝時に「お弁当全部食べたの。ママ喜ぶかな～」と眠っていく姿、
お迎えの時に完食したお弁当箱を誇らしげに見せる姿、
そして保護者の方の

「おうちでは、なかなか食べてくれないのにこんなに食べた！」と喜び驚く声や
「ママ、お弁当おいしかったよ」と言われて嬉しそうな顔が毎日の心とむ瞬間です。

当日利用が決まったり、体調が優れなくて用意をするのが大変な時には
購入品でもレトルトでも構いません。

子どもたちは保護者が自分のために用意してくれたことが喜びに繋がります。
その中に好きな食べ物があると更にテンションが上がります！

みんなで食べるお弁当時間を大切にしていきたいです。



😊 おべんとう、おいしいね！



うれしいな～♡♡😊

地域と一緒に 健康な体、豊かな心の基礎をつくる



フェアリーランド横浜センター北
フェアリーランド横浜センター南

自然は宝の山

地域の方の畑の一部を貸していただき、一年を通して畑体験をしています。
虫を怖がっていた子も、歩きにくい土の上を歩きながら
草むしりや苗植え、水やりを通して畑に慣れていきます。
自分たちで植えた苗が大きく育ち実がなると
「トマトはブドウみたい」「ピーマンは変なにおいがする」
「このナスは曲がってるね」などの声も自然と聞こえてきて、
子ども達の感性に思わず笑顔になり先生たちも一緒になって発見を喜んでいます。
畑での体験を通して、図鑑などで見た知識だけでなく、
葉や花は野菜によって色や形にもおいも違っていることに気付き、
敏感な子ども達の視点で私たちが教えられることもたくさん。

種から芽が出てどんどん葉が大きくなり、そのうち蕾ができて花が咲き、
花が枯れると実ができる。実を割ると中には種ができています！

言葉で説明するよりも実際に体験することが一番の学びです。
そういう意味でも畑、自然は宝の山です。



こもれびと風 おおい認定こども園

地域とともにみんなで育つ



私たちが大切にしたいことは
「地域とともにみんなで育つ」ということ。

畑に出かけ、土に触れ、自然の中で過ごす時間は、
子どもだけでなく大人にもとても大切なことです。
自然とのふれあいを通じて
命の大切さ、自然を大切にすることを学び、
その過程を地域の大人たちと一緒に感じ、
考えることで成長していきます。

子どもたちが夢中になって土と向き合うそばで
大人たちも一緒に泥んこになって笑いあう。

そんな時間の中で
「たべること」や「自然といのち」が
つながっていくことに気づき、学びになっていくことを
大切にしていきたいと考えています。



まなぶことはあそびから。～こどもたちのエピソード～

子どもの何気ないつぶやきや「どうなるのかな?」「やってみよう」という好奇心が
あそびからの学びをぐっと深めてくれます。

素材や色、感触を楽しみながら友だちとつながり、
一緒に考えたり試したりすることでもっともっとあそびは面白くなっていきます。

エピソード：素材×おみせやさんごっこ

ある日、カラフルな花紙を用意しておくと、
それに気づいた子どもたちがくるくると丸め始めました。
どうやらキャンディーを作っているようです。

「いちご味!」「こっちはレモン味でプレゼント用」と
色や感触を楽しみながら次々とキャンディーを作り
たちまちおかしやさんが始まりました。

次の日には毛糸を麺に見立て、画用紙で作った
にんじんやたまごの具をのせた「やきそばやさん」が加わりました。
はさみを使って麺の長さを調整したり
「これはラーメン」「水色の毛糸だからそうめん!」など
それぞれのイメージで作ることを楽しんでいます。

「味も書いてみない?」としょうゆやみそを
文字で書いてみようというアイデアが広がっていききました。
すると一緒にあそんでいた友だちが

「しょうゆの“しょ”ってどう書くの?」と保育者へ聞きにきて
一緒に文字を書いてみることに。

日々のちょっとした素材でつくることの楽しさや文字への興味、
そして誰かと関わる喜びへと広がっていき、
子どもたちの成長のひとコマが感じられた時間となりました。

素材を楽しむ

エピソード：ビオトープ×丸太×どろんこ

園庭には、ブランコも滑り台もありません。あるのは天然の丸太たち。
むくやけやきの丸太・・・どれも同じ形は一つもなく、
丸太を並べて橋にしたりグラグラ揺れる感覚を楽しんだり
子どもたちは自分たちで無数のあそびを見つけ作り出しています。

丸太の下にはビオトープが広がっていてちょっと丸太をどかせば
ダンゴムシやアリ、時にはカエルも。
虫かごに入れては目をキラキラさせながら夢中で観察しています。

夏場になるとどろんこあそびが始まり、
裸足で泥に入ったときのぬめっとした感触、
思い切りからだを使って泥だらけになってあそぶ姿はダイナミックです。

その一方で「汚れるのがいやだ」「なんか気持ち悪い」と感じる子もいます。
そんな気持ちも大切にしながらー はじめは目で楽しみながらー
「やってみようかな」と思えるタイミングをゆっくり待ちながらー 自然とふれあうことを大切にしています。
「感覚」「感触」は子どもにとって「感じ方」を超えて色々な世界を知る・自分自身を知るきっかけにもなるのです。



感覚・感触

いろを楽しむ

エピソード：アサガオの花×水

園庭で咲いていたアサガオの花びらを集めて、色水あそびがはじまった年中クラス。花びらをビニール袋に入れて揉んでみるとじわーっと色がにじみでて、色とりどりの色水になりました。

色水をカップに移したり、いくつかの色を混ぜて新しい色をつくったりと色の変化に気づいた子ども達は、「赤と青を混ぜるとムラサキっぽくなるね」など大興奮。けれど、いろいろな色を次々に混ぜていくうちに「あれ？なんか変な色・・・」「きれいじゃない・・・」と思いつきの色にならないことで残念そうな表情を見せる子も。

上手くいったり、上手くいかなかったり、そんな試行錯誤も子どもたちにとっては大切な学びの一つです。

アサガオの花びらから始まったこのあそびは色や感触、水の不思議さとともに「思い通りにいかなかったこともある」という経験やそこからもう一度チャレンジしてみようとする力が育まれていました。



あそびがつなぐ

テーマ『ぼくらのうちゅう』

素材と素材を繋げるだけで終わってしまうこともあった子どもたち。いろいろな素材に触れ、保育者のサポートで素材の使い方を正しく知り、自由にのびのびと表現していくうちに素材を「使う」ということを習得しました。

そうすると「もっとこうしてみよう！」とアイデアが次々と生まれ、できたのは園児全員で協力した超大作「ぼくらのうちゅう」。

「うちゅうといえば、ロケットに宇宙飛行士！さあ何を使って作ろう？」子どもたちからは「これを使ったら？」「色は何色がいいかな？水色は？」など様々な意見が飛び交い、作ることに夢中になっています。中には宇宙人を描き、宇宙船を折り紙で折る子もできました。

ロケットにはトイレットペーパーの芯…。宇宙飛行士には梱包材…。普段は見向きもされない素材が子どもたちにとっては大切なあそびの一部に！子どもたちの自由な発想が素敵な作品を作り上げました。



こどもと関わるってこんなにおもしろい！

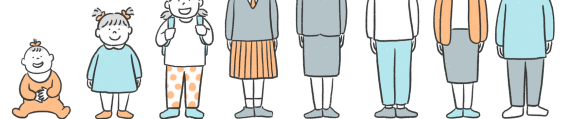
～ 小中学生・高校・大学生に関心をもってほしいこと ～

社会の中で育ちあう未来の大人たちこそ今、
子どもと関わる"本当のおもしろさ"や人が育つ現場のリアルな姿を知ることが大切です。
子どもが見る世界を知ること、人との関係や自分自身の将来像、
家族を持つことや社会で生きることを考えるきっかけになります。



1. 今の自分が『こども』の頃に立ち返るということ

保育園や幼稚園、小学校に入ったばかりのころ。
あの頃、自分が何に夢中になりどんな時間を過ごしていたのでしょうか。



地面がすぐそこにあって、小さな草花やアリ、ダンゴムシの動きを観察したり、
見上げた空には飛行機や鳥が飛んでいてそれだけでワクワクしていたことを思い出すかもしれません。
楽しいこと、好きなことに夢中になる時間がある一方で、
自分の気持ちをうまく言葉に出来ず、不安や戸惑いを感じることもあったと思います。

子どもが育つということは、単に大人になるということではありません。
子どもだった自分に心を寄せながら、いま目の前にいる子どもたちにとって本当に必要なこと、
大切にしたいことに耳を傾け共に過ごすこと。その積み重ねが子どもの育ちに繋がっていくのだと思います。

2. 「家族とのつながり」「親になること」へのイメージを深めていくこと

小さな存在と向き合う中で、家族とのつながりや親になるということの意味が深まっていきます。
現代社会において、幼い子どもと直接かかわる機会が少なくなりつつある今だからこそ
意識的にそのような関わりをもち、家族の意味を深めたり、
将来「親になるということ」のイメージをしていくことが大切です。

まだ言葉にうまくできない子どもの表情やしぐさに寄り添う中で
子どもの気持ちを感じ取り、自分の関わり方を考えてみる・・・。
それが人とのつながりの中で育まれる力になります。

家族での何気ないやりとりや親子のふれあいの中から
「生きる力を育てていくプロセス」に向き合うことで
体験することの意味や家族、社会とのつながりの大切さを学んでいくことが出来ます。



3. 保育士という仕事の魅力を知ろう

子どもに関わる“未来人材”を
社会全体で育むために保育士という仕事を見てみよう。



小学生のみなさんへ

みんなのまわりにいる 保育園や幼稚園・こども園の
せんせいたちは いっしょにあそんでくれたり、
こまったときに たすけてくれたりする
たよりになる人たちです。
でもね、せんせいたちは
ただ子どもたちを 見ているだけではないんだよ。

いっしょにあそんだり、おはなしをする中で、
ひとりひとりが 何にむちゅうになってワクワクしているか、
何にこまっているのかを みきわめて、
その子にあった かかわりをする おしごとなのです。

人がつくられる 一番だいじなじきの サポーターなんだ！

中学生のみなさんへ

保育士は小さなこどもたちと毎日ふれあいながら
笑ったり、泣いたり、悩んだりして
一緒に学び合い成長していく職業です。

子どもの気持ちを代弁して寄り添ったり
安心できる空間をつくったりする中で自分自身も
「人を思いやる心」や「伝える力」が育っていきます。

人との関わりが好きな人や人の成長を心から喜び合える…
それが保育士です。

高校生のみなさんへ

保育士は子どもの命と成長に深く関わり合う
責任のある職業です。

子どもの気持ちをくみ取りながら、どう声をかけたら
安心できるか、どんな環境なら意欲を引き出せるかを考え、
日々の関わりを通じて信頼関係を築いていきます。

子どもたちの姿から学ぶことも多く、
自分自身も人として成長していける魅力的な職業です。

大学生のみなさんへ

保育士は子どもの発達や感情を理解し、
その成長をサポートする専門職です。

子ども・保護者・地域とつながりながら
子どもを取り巻く環境全体を把握し、
広い知識と柔軟な対応力が求められます。

また多様な背景を持つ子どもや家庭と向き合う中で、
社会への理解や人間関係のスキルも深まっています。

— 保育士は未来を育てる —
社会的に意味のある職業です。

アクセスはこちら



一般社団法人 こどもの未来につながる働き方研究機構

小中学校・高校・大学向け研修 ～ 現役保育士による出前授業 ～

- 〈対象〉 児童・学生
〈内容〉 ・子どもの視点で世界を見てみよう
・保育士という仕事を見てみよう
・親子の関わりについて考えてみよう など



一般社団法人
こどもの未来につながる働き方研究機構

こどもの未来につながる働き方とは

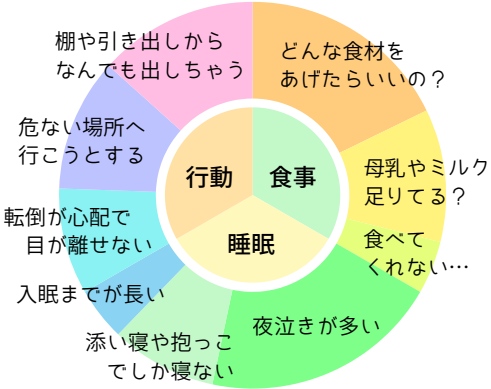
子どもと向き合う 保育者 × 子どもを育てる 親 × 未来人材である 子どもたち

「子どもたちにとって今、何が一番大切なのか」を理解し合いながら、
これからの働き方を社会全体で考えていく活動をおこなっています。

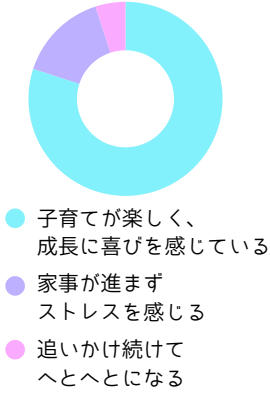
保護者アンケート ～子育ての困りごとってどんなこと？～

フェアリーランドの保育園・こども園を利用いただいている0歳児から5歳児のお子さまをお持ちの保護者を対象に、「子育ての困りごととはどんなこと？」と題したアンケートを実施しました。
子育ての中では「うちだけ？」「これでいいの？」と不安になることも多くあると思います。
子育て世代の悩みや不安を見える化することで、「同じようなことで悩んでいるんだ」「話してみよう」「相談してみよう」と思えるきっかけにもなればと思っています。フェアリーランドでは、こうした小さな子育ての悩みにも耳を傾け、気軽に相談できる環境がどの園にも整っています。

0歳児 子育ての悩み



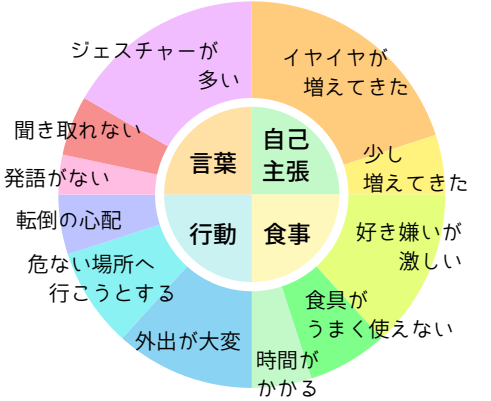
親の気持ち



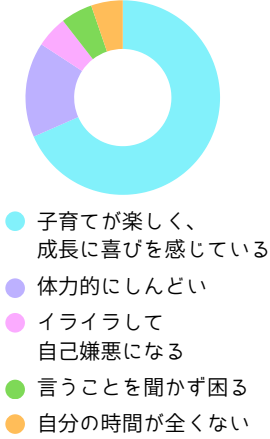
～睡眠・食事・行動の悩み～

0歳児はまだ生活のリズムが安定せず、睡眠や食事、行動のことで悩むことが多い年齢ですね。「なかなか眠ってくれない」「食べムラがある」「よく泣いてぐずる」など、0歳児ならではの困りごとを感じている方がほとんどだと思います。
でも、こうした0歳児の悩みは「あ、自分だけじゃないんだ」と思えたり「どうやって乗り越えているのだろう」など、みんなが同じように感じていることだと分かるとホッとしますよね。
初めての子育てで手探りの毎日だったり、多子世帯や兄弟がいる中で子どもと向き合っていたりと、それぞれの状況の中で誰しもが0歳児を前に奮闘していると思います。
小さくて不安なことも多い時期ですから一人で抱え込まず、周囲のサポートをうけながら、できるだけリラックスできる時間をつくり、子どものペースやサインに応じていける環境を整えていけると良いですね。

1歳児 子育ての悩み



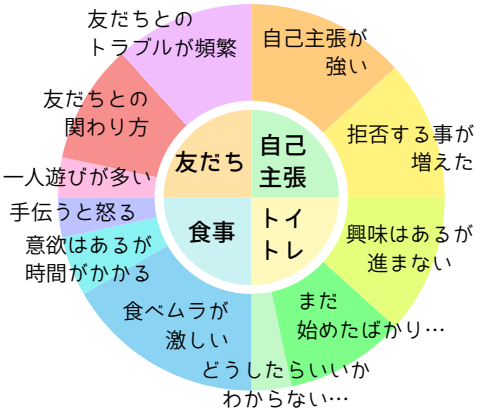
親の気持ち



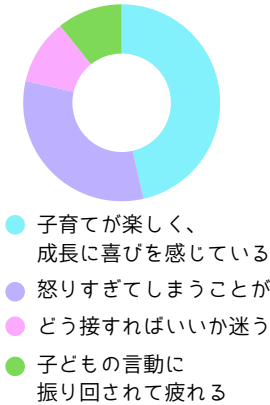
～言葉・自己主張・行動・食事の悩み～

1歳児になると自分の気持ちややりたいことを伝えようとする姿が増えてくる一方で、言葉がまだ十分でないために自己主張が強くなったり、思い通りにならないと泣いたり怒ったり…そんな感情の波に付き合う場面も多くなりますよね。
成長の過程には環境づくりがとても重要で、安心して自由に動き回れる心地よい空間があることで子どもは自分の思いや考えを安心して表現できるようになります。
好奇心旺盛な行動をプラスと捉えて一歩ずつ世界を広げていく
1歳児の時間をゆったりと見守っていききたいですね。

2歳児 子育ての悩み



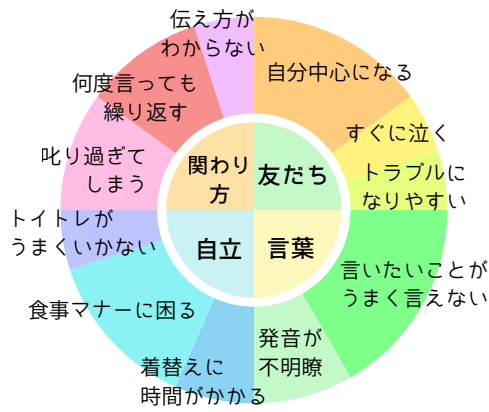
親の気持ち



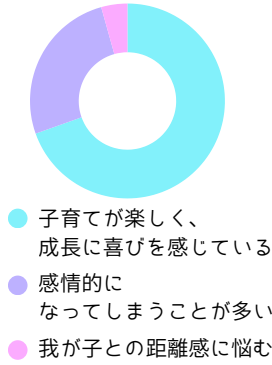
～自己主張・トイトレ・人との関わりの悩み～

2歳児になると少しずつ人とのつながりが見え始め、友だちとの関わりや関心が芽生えてきます。しかしまだまだ「自分の世界」も大切にしている一人あそびを好む時期でもあります。
そのため、トラブルが起きやすく、どう対応していいかわからないことも多く、言葉で想いがうまく伝わらないことも多く、じれったさや声かけ一つひとつの難しさに直面し、親にとっても苦労が多い時期かと思います。
そんな時だからこそ「子どもっておもしろい」という視点で焦らずに、子どもの気持ちに共感しながら接していくことが大切だと思います。

3歳児 子育ての悩み



親の気持ち

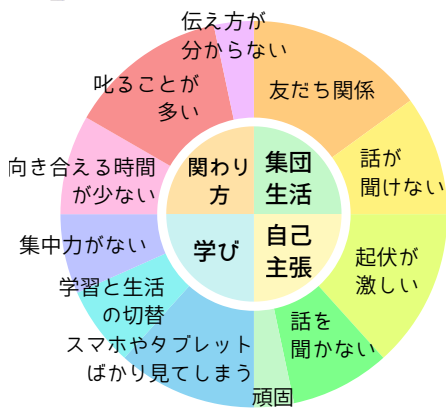


～自立・人との関わり・言葉の悩み～

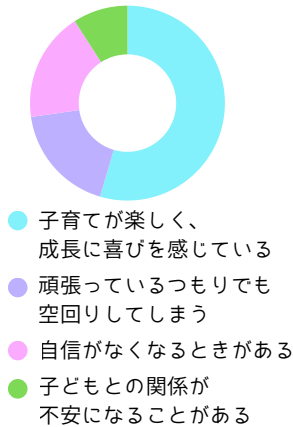
3歳児ともなると、自立心がぐっと芽生え、自分で考えて行動しようとする力が育ってきます。友だちとの関わりもより深まり、社会性が急速に広がる時期です。ただ自分の気持ちを言葉でうまく言い換えることはまだまだ難しく、もどかしさや葛藤から感情が溢れてしまい「どうしたら良いか」と対応の難しさを感じることも多いと思います。

親としては我が子との距離間や接し方に悩み、つい感情的になってしまうこともあるかと思いますが、この時期は子どもが自分で問題を解決する力の基礎が育まれる時期。「今は色々下積みの時期だね」と理解しながら、時には一緒に立ち止まってみたりと子どもとの対話を大切に積み重ねていきたいですね。

4歳児 子育ての悩み



親の気持ち



～社会性・人との関わり・学ぶ意欲の悩み～

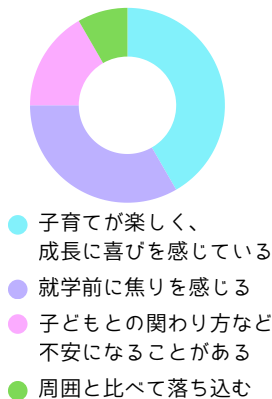
4歳児は、友だちや大人との関わりがますます豊かになり、自分の気持ちや考えを相手に伝える力が深まってきます。自分で出来ることも増えることから「知りたい」「やってみたい」といった新しいことへの興味や挑戦しようとする気持ちがより高まる時期です。

身近な生活の中でスマホやタブレットなどから様々な情報に触れる機会も増え、言葉の量や知識も脳にインプットするスピードも早くなってきます。良い意味で情報をどんどん集め、自分なりに理解しようとする姿がある一方で言葉の使い方や表現方法はまだまだ未熟。ただ見せるのではなく、一緒に考えたり話題にしながら活用することで情報を取り取る力や正しい言葉・表現方法を習得できるように寄り添っていきたいですね。

5歳児 子育ての悩み



親の気持ち



～就学(学習面)・社会性・人との関わりの悩み～

5歳児は、もうすぐ小学生になるという大きな期待と希望に満ちた、かけがえのない時期です。ランドセルを背負う自分の姿を想像したり、新しい友だちとの出会い、小学校という場所に行くことに胸を膨らませた子どもの成長を間近で感じられることは親としても大きな喜びだと思います。

周りと比べて焦ったり不安になったりすることもあるかもしれませんが、ですが、これまで子どもが積み重ねてきた経験が「自信」という大きな力に繋がっていると思ってあげることが重要です。

この大切な時期だからこそ結果を求めるのではなく子ども自身が「自分ができる!」と思える気持ちをみんなで育てていきたいですね。

喜びも悩みも分かち合える場所として

今回、フェアリーランドを利用してくださる保護者の方へアンケートにご協力いただきました。0歳児から5歳児をもつ保護者の方のアンケートには沢山の想いが詰まっていました。子育てに真摯に向き合っているからこそ生まれる悩みを保護者の皆さんが一つひとつ乗り越えているのだなと感じました。子どもはみんな違うからこそ、成長するたびに新しい発見があって「子育ての答えは一つではない」ということに気づかれます。なかなか難しいけれどその分、子育ては楽しくて面白いものになるのだと思います。そんな風に考えたら、悩みも少しずつ喜びに変わっていくのではないのでしょうか。

今回のアンケート結果を通じて嬉しく思ったことは、悩みを抱えながらも「子育てが楽しく、成長に喜びを感じている」と回答してくださる方が多かったこと。これからも私たちフェアリーランドの保育者たちが「喜びも悩みも分かち合える子育てサポーター」として寄り添い、共に歩んでいける存在でありたいと心から思いました。

全園に寄せられた温かいメッセージ

アットホームであたたかく、先生方がみんな明るく楽しく優しく接してくださり、また、19名の少人数だからこそ、異年齢で過ごし子どもたち同士でお世話をしたりされたりといった、思いやりの心も育む事が出来ました。

預けるときに必ず涙する我が子が先生方の魔法でさっと泣き止んで笑顔振りまく姿にとっても安心しました。連絡帳での写真は、笑顔がたくさんで家で撮るよりいい顔です！

子どもに真摯に向き合ってくださっているだけでなく、四季折々の行事を経験させてくれたり、保護者にも細やかな配慮のあるイベントを開催していただいたりと、本当にフェアリーランドさんに預けることができて良かったと日々実感しております。

毎日献立を見て帰ります。好きなメニューは「家でも食べたい」と言うので作っていますが、食に興味が無かったので初めて自分から食べたいと言ってくれた時の驚きと喜びを今でも覚えています。スーパーで食材の名前も覚え、「保育園で見たからこれ買う」と食べ物レパートリーも増えました。ありがとうございます！

家族皆フェアリーランドへの思い入れが深く、最後の日になってしまう事を寂しく思っています。今も家の壁には製作したものすべてを飾っています。

小学生になってから偶然会えることを楽しみにしているようです。公園でお会い出来た日には邪魔にならないように近くで遊ばせていただきます。大人になっても大好きなフェアリーランドの事を忘れないと思います。

先生たちはいつも笑顔で、お忙しいはずなのに愛情たっぷりの展示物、栄養バッチリの美味しい給食、写真や連絡帳でその日の子どもの様子を丁寧に教えてくれて、安心して預けることができました。

できるようになったことや嬉しいことを先生方が一緒になって喜んでくれる姿や、常に危険に気をつけながらやりたいことを見守ってくださること、いつでも温かく見守ってくださる先生方のおかげで息子の優しい気持ちが育っているのだと思います。

毎日「保育園行こう！」と笑顔で登園し、迎えに行くと「今日はお山でいっぱい走ったよ」「給食おいしかったよ！」など嬉しそうにたくさん教えてくれる姿が親としてはとても嬉しく、先生方やお友だちが大好きで、のびのびと遊ばせてもらっていることが伝わってきます。細かな息子の体調や変化にも気づいていただき、絶対的信頼を寄せております…。いつもありがとうございます！





一番大切にしていること
それは
「たくさんの経験を積み重ねていくこと」

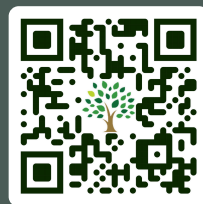
子どもたちは一日一日の経験を通じて
少しずつ自分のペースで世界を広げていきます。
できた喜びも、思うようにいかないくやしさも、
思い切り笑うことも全てが その子にしかない大切な歩み。
小さなできごとの歩みに関わる人とつながりながら豊かに育っていくー
そのかけがえのない時間がやがて大きな成長に繋がっていくことを願って。



各園のホームページ



株式会社
フェアリーランド



こもれびと風
おい認定こども園

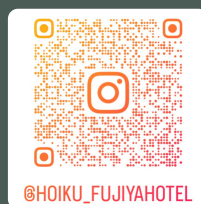
各園のInstagram



フェアリーランド
横浜市各園



こもれびと風
おい認定こども園



富士屋ホテル
保育園



〇がっ△にち〇ようび

にっちよく
はなこ
たろう

フェアリーランド

FAIRY LAND